

## 第 1 章 移動動詞の格結合分布

### 1.0. 第 1 章の目的

0.1で述べたように、移動動詞は、“移動”という共通の意味をもつのだが、実際の使用においては、どのような格の場所名詞とどのような結合頻度で用いられるかという点で異なる特徴を示す。それは、共通の範疇的意味をもっているように見える動詞であっても、それぞれ異なる語彙的意味の側面をもつことの反映だと思われる。したがって移動動詞と場所名詞の格との結合頻度を考察することによって、各動詞のもつ個別の特徴的な意味を知ることができるのではないかと考えられる。そこで、この章では実際の言語資料における移動動詞と各格名詞（ヲ格、ニ格、ヘ格、カラ格、マデ格）との結合頻度を調査し、それぞれの移動動詞が異なる格結合頻度を表すことを示す。

### 1.1. 本章のデータ

#### 1.1.1. 〈空間的移動〉の範囲

この章の考察対象とする移動表現の範囲は、「彼は今学校へ行った」のように移動体の空間的移動が認められるもの、すなわち有情物移動体、無情物移動体の空間的移動を表すものである。虚構的移動を表すものは第 3 章で検討する。

ここで〈空間的移動〉というのは、移動体（有情物・無情物）が移動の開始地点（出発点）から移動の終了地点（到着点）への位置変化、さらにある場所（経過点）を経過する移動動作をも含む。

- (10) 理一は、この日少年院から会社へ行き、行助が保護委員に語った、どうしても修一郎を赦せない、という言葉について考えてみた。(冬の旅)
- (11) 医者は廊下を足早に歩いた。(海辺の光景)
- (12) 外に出るとそのまま新橋駅まで雪道を歩き、朝から浮浪者が焚火などをしている大ガードを越えて銀座通りに向かう。(新橋烏森口青春編)
- (13) 花子はその顔に薄化粧してから鏡の前を去った。(孤高の人)
- (14) 三原紀一は、夕刻近く東京駅についた。(点と線)

一般的に空間的移動を考える時、(10)のように出発点（「少年院」）から到着点（「会社」）へ位置変化する場合のみを空間的移動として考え、(11)のようなものは位置変化というより「歩く」という移動動作を表すと考えるかもしれない。しかし、「歩く」も(12)のように移動動作の終了地点「新橋駅」までの位置変化を表すし、(11)も「廊下を 1 メートル歩い

た」のように位置変化した距離を表すものと結びつくことができるので、位置変化を含んでいる。従って、「歩く」のように移動動作を表す動詞による移動表現も考察の範囲に入れる。さらに、(13)(14)は移動の終了地点と開始地点は示されていないが、(13)は移動の開始地点である「鏡の前」から移動体（「花子」）がいなくなり、移動体の位置変化が考えられるし、(14)は移動の終了地点である「東京駅」に移動体（「三原紀一」）が位置変化したので、空間的移動として考える。

そこで、本章では「歩く」などのように、移動体によって引き起こされる移動動作をとらえる動詞（以下、〈動作動詞〉）による移動と、「行く」「去る」のように移動動作の側面は切り捨て、結果として残る位置変化をとらえる動詞（以下、〈位置変化動詞〉）による移動表現を考察する。

### 1.1.2. 用例採集の基準

用例採集の基準は次のとおりである。

1. 動詞の全ての活用形を対象にする。ただし、「部屋ヲいったりきたりする」は、単独の「いく」「くる」ではなく「いったりきたりする」という全体が「部屋ヲ」と結びつき、「いく」や「くる」とは異なるので、対象外とする。
2. 各動詞の「～テイク/テクル」形について、宮島(1986)は移動に直接関係する格支配の上で元の動詞とは異なる性質をもっているため、別の動詞としている。本稿も同様に考えるが、移動動詞の語彙の意味を考える際には、本章では単純動詞のみを対象とする。ただし、移動動詞を含む複合動詞について考察する第5章では「～テイク/テクル」形を広義の複合動詞として考察対象とする。
3. 「～テイル」形は動作継続や位置変化の結果継続などアスペクト的な意味を表すので対象外とする。
4. 各動詞の表記の差異（漢字、ひらがななど）は問わず、同一動詞とする。

### 1.1.3. 考察に用いるデータ

本章のデータは、0.3.2に示した考察対象動詞 45 語の用例を、0.3.3で示した言語資料から全例採集したものである。考察に用いる用例数は次のとおりである。

表 3 「空間的移動表現」の用例数

	用例数	比率
有情物移動体の移動表現	21,061 例	97.5%
無情物移動体の移動表現	539 例	2.5%
計	21,600 例	100%

〈「比率」は「空間的移動表現」の用例数に対するそれぞれの移動体の表現の割合〉

0.3.1で示したように、〈空間的移動表現〉は移動体が有情物の場合と無情物の場合がある。次はそれぞれの場合の移動動詞の出現頻度を示す。

表 4 空間的移動表現の移動動詞の出現頻度（有情物移動体）

	動詞	出現頻度		動詞	出現頻度		動詞	出現頻度
1	いく	4509	16	わたる	276	31	すぎる	60
2	くる	2997	17	あつまる	252	32	むらがる	53
3	でる	2337	18	すすむ	177	33	おもむく	52
4	かえる	1822	19	こえる	143	34	しりぞく	38
5	はいる	1555	20	うつる	137	35	はう	37
6	あるく	1138	21	あがる	134	36	さがる	24
7	もどる	821	22	ぬける	121	36	つたう	24
8	むかう	709	23	たつ	119	38	すべる	20
9	つく	527	24	くぐる	95	39	うろつく	17
10	のぼる	517	25	くだる	93	40	さまよう	16
11	おりる	465	26	かける	90	41	めぐる	10
12	はしる	442	26	およぐ	90	42	むれる	7
13	はなれる	314	28	とぶ	85	43	よぎる	6
14	とおる	307	29	たどる	72	44	いたる	4
15	さる	285	30	まわる	61	45	ぶらつく	3

計 21,061

表 5 空間的移動表現の移動動詞の出現頻度（無情物移動体）

	動詞	出現頻度		動詞	出現頻度		動詞	出現頻度
1	くる	154	9	つたう	10	17	よぎる	3
2	はいる	85	12	あがる	8	22	いく	2
3	でる	59	13	ぬける	7	22	おりる	2
4	のぼる	55	14	すべる	6	22	くぐる	2
5	とおる	32	15	すすむ	4	22	はう	2
6	とぶ	26	15	まわる	4	26	さがる	1
7	はなれる	20	17	こえる	3	26	むれる	1
8	わたる	18	17	つく	3			
9	あつまる	13	17	むかう	3			
9	はしる	13	17	もどる	3			

計 539

表 4 の有情物移動体の場合、移動動詞の出現頻度は、表 2 の全体の結果とそれほど変わらない。表 5 の無情物移動体の場合を見ると、有情物移動体の場合に比べ、用例数が非常に少ない。移動動詞の出現頻度も有情物移動体の場合は、「いく」が最も多く現れるのに対して、無情物移動体の場合はあまり現れず、「くる」が最も多く現れる対照的な傾向を見せる。また、無情物移動体の場合は、「あるく」「かける」などの動詞の出現頻度が 0 の動詞が多く、45 個の動詞のうち 27 個の動詞のみが現れ、無情物移動体の移動表現を表す動詞に制限が見られる。

## 1.2. 格結合分布

### 1.2.1. 格計量の基準

各移動動詞がどの格の場所名詞と多く結びつくか、格との結合頻度を調べるため、それぞれの移動動詞と名詞の各々の格（場所+ヲ、ニ、へ、カラ、マデ）との結合頻度を調べる。ここで格というのは形態論的な格である。その際、格を計量する基準は次のとおりである。

1. 「学校へ友だちと一緒に行った」のように、格と動詞の間に別の要素が入った場合も、「学校へ行く」という関係が読み取れるときには、「行く」が「学校へ」と結びついた例として扱う。
2. 「山ヲ歩いて越える」の場合、移動動詞としては、「歩く」「越える」の 2 つの動詞をカウントするが、「歩いて」は「越える」という移動動作の移動様態を表している。したがって、「越える」が「山ヲ」と結びついたものとして数え、「歩く」は格と結びついていないものとして数える。
3. 「学校へハ行かなかった」の「学校へハ」のように、「へハ／へモ」「ニハ／ニモ」「マデハ／マデモ」などの係助詞と複合した形も対象とする。例えば「学校へハ」は「へ」に入れる。
4. 「夏休みには海へモ山へモ行った」のように、同じ格が並列しているものは、1 つの格と結びついたものとする。
5. 「私が昨日行ったお店」のように、場所名詞が連体修飾節の被修飾語として示されている例は、意味的には「お店ニ／お店へ」という格が想定できるが、格が明示されていないので、格と結びついていないものとする。

### 1.2.2. 格結合頻度の偏り

1.1.2 と 1.2.1 で示した用例採集条件で移動動詞の格結合頻度を調べたが、それぞれの移動動詞は、同じ格結合能力をもつ動詞であっても、それぞれの格の名詞との結合に異なる様

子が見られる。考察する移動動詞全体の格結合頻度を示す前に、考察する移動動詞の中で「あるく」「はいる」「いく」「のぼる」を例に格結合頻度の様子を見ることにする<sup>9</sup>。

「あるく」「はいる」「いく」「のぼる」は、“移動”という範疇的意味をもつ動詞であり、いずれの動詞も移動の出発点、経過する場所、到着点を表す「学校から」「山道を」「学校に」「学校へ」のように、カラ格、ヲ格、ニ格、へ格の名詞と一応結びつくことができる。

- ・「家からあるく／山道のあるく／学校の方にあるく／公園へあるく」
- ・「庭からはいる／門をはいる／部屋にはいる／部屋へはいる」
- ・「家からいく／山道をいく／学校にいく／学校へいく」
- ・「一階からのぼる／階段をのぼる／二階にのぼる／屋上へのぼる」

ところが、次の図に示すように、これらの動詞がそれぞれの格の名詞と結びつく頻度は必ずしも同じではない。

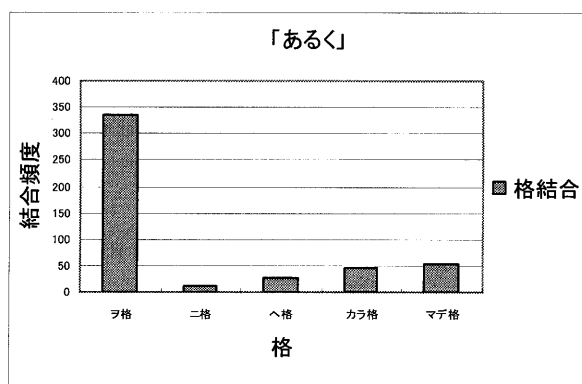


図 1 「あるく」の格結合分布

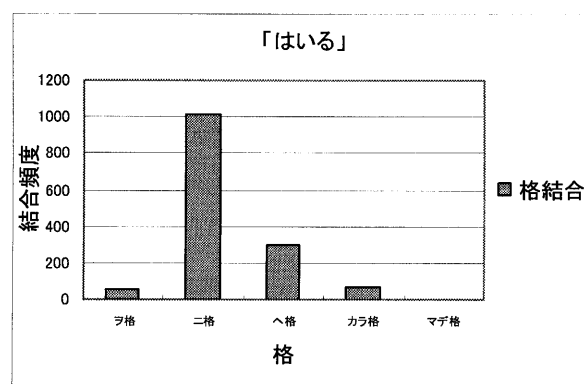


図 2 「はいる」の格結合分布

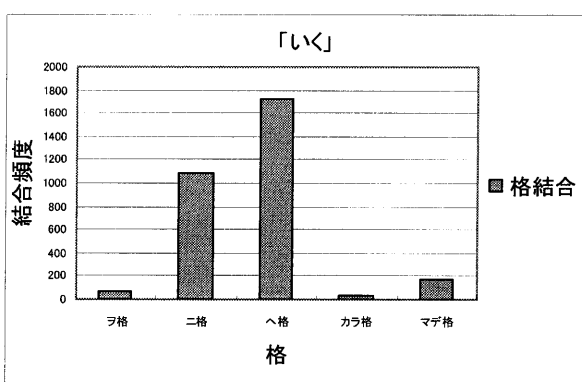


図 3 「いく」の格結合分布

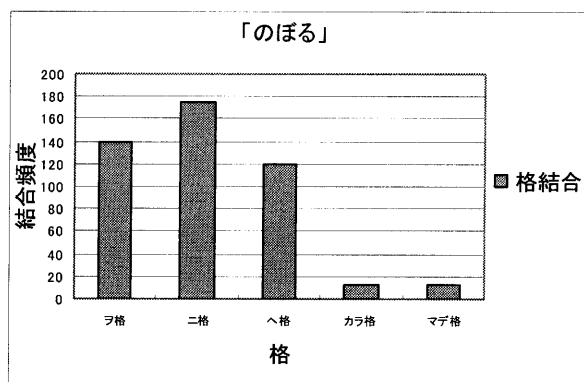


図 4 「のぼる」の格結合分布

<sup>9</sup> 以下に示すのは、有情物移動体の場合の結合分布である。無情物移動体の場合は、用例数が非常に少なく、現れる動詞も限られており、格結合頻度を比べるのは難しいので、省略することにする。

まず、「あるく」の場合、図 1 を見れば分かるように、実際の言語資料においてはヲ格との結びつきが極めて多く見られ、それ以外の格との結びつきはそれほど多くない。一方、図 2 の「はいる」は二格との結びつきが極めて多く、ヲ格をはじめそれ以外の格との結びつきは少ない。図 3 の「いく」はへ格との結びつきが非常に多く、二格との結びつきも多く見られるが、それ以外の格との結びつきはそれほど多くない。図 4 の「のぼる」の場合はさらに異なる結合分布が見られる。図 4 から分かるように、「のぼる」は二格との結びつきが最も多いが、ヲ格、へ格との結びつきも同等に見られる。このように“移動”という範疇的意味をもつ動詞であり、能力としては同じ格結合能力をもつ動詞であっても、実際にはそれぞれ結びつきの強い格が異なるのである。それはこれらの動詞が“移動”という同じ範疇的意味をもちながらも、個々に異なる語彙的意味の側面を有しているからであろう。

また、「あるく」「はいる」「いく」が一つの格との結びつきに偏っているのに対して、「のぼる」は最も多く結びつくヲ格以外の格との結びつきも多く、均衡した格結合分布を見せるのである。このように、ある動詞は一つの格とのみ極めて高い結合頻度を見せるが、ある動詞は複数の格と均衡した結合頻度を見せる。このことも異なる語彙的意味の側面の現れであると考えられる。

それでは、それぞれの移動動詞がどのような格結合分布を見せるのか、本稿の考察対象動詞 45 語の格結合分布を 1.3 で示す。

### 1.3. 移動動詞と格との結合分布

各移動動詞とそれぞれの格との結合頻度を示すが、表 6 は移動体が有情物、表 7 は移動体が無情物の場合である。表の見方については以下に示す。

1. 「動詞」は調査した各動詞を示す。
2. 「ヲ」から「向」までは、その動詞がそれぞれの格と結びついた用例の数である。  
「%」の列は、当該動詞の用例数に対する、各々の格と結びついた用例数の割合である。ただし、同時に 2 つ以上の格と結びついているものがあるため、割合を合算すると 100% を越えることがある。
3. 「格」の行にある「向」は「ニ／へ向かって」を表す。「向かう」は「向かう／向かい／向かって」のように活用し、格助詞を表すものではないが、「東に向かって歩く」のように「向かって」の形で方向を表す場合もあるので、考察のために入れておく。
4. 「格結合数」は、1 用例中に現れた当該動詞に結びついた格の数である。例えば、

「0」は「彼は行った」「私が昨日行ったお店」のように、格が明示されていないことを意味する（「0」の後の％は当該動詞の用例のうち格結合数「0」の用例の割合）。「1」は「彼は学校三行った」のように、1つの格と結びついていること、「2」は「彼は家カラ学校三行った」のように、2つの格と結びついていることを意味する。

5. 「用例数」は各動詞の用例数を示す。それぞれの欄はその該当する動詞の用例数を示す。
6. 表の中の「-」は用例数0と0.0%を意味する

表は、各格の名詞（ヲ格、ニ格、ヘ格など）と最も多く結びつく動詞別にグループに分かれている。各グループ内の動詞は、それぞれの格との結合頻度が高い順に示す。1.1.2に述べたように、漢字などの表記の差異は考慮せず採集したので、ひらがなで挙げる。

表 6 移動動詞と格との結合頻度 (有情物移動体)

格 動詞	ヲ		ニ		ハ		カラ		マデ		向		格結合数					用例 数
	フ	%		%		%		%		%		%	0	%	1	2	3	
ぶらつく	3	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	3
つたう	24	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	24	-	-	24
めぐる	10	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	10	-	-	10
よぎる	6	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6	-	-	6
まわる	60	98.4	-	-	-	-	-	-	1	1.6	1	1.6	-	-	60	1	-	61
すぎる	59	98.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	3.3	57	1	-	60
くぐる	91	95.8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	4.2	91	-	-	95
こえる	135	94.4	1	0.7	4	2.8	4	2.8	-	-	1	0.7	6	4.2	130	6	1	143
ぬける	111	91.7	5	4.1	5	4.1	4	3.3	-	-	-	-	7	5.8	113	6	-	121
たどる	61	84.7	1	1.4	4	5.6	4	5.6	2	2.8	1	1.4	8	11.1	56	7	1	72
とおる	233	75.9	-	-	-	-	-	-	2	0.7	-	-	72	23.5	235	-	-	307
たつ	88	73.9	7	5.9	23	19.3	3	2.5	-	-	-	-	21	17.6	97	1	-	119
わたる	202	73.2	30	10.9	29	10.5	7	2.5	1	0.4	1	0.4	24	8.7	233	19	-	276
うろつく	12	70.6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	29.4	12	-	-	17
さまよう	10	62.5	3	18.8	-	-	-	-	-	-	-	-	3	18.8	13	-	-	16
はなれる	175	55.7	-	-	-	-	115	36.6	-	-	-	-	24	7.6	290	-	-	314
くだる	42	45.2	17	18.3	20	21.5	9	9.7	4	4.3	2	2.2	8	8.6	76	9	-	93
さる	113	39.6	17	5.96	31	10.9	10	3.5	-	-	-	-	114	40.0	171	-	-	285
でる	870	37.2	632	27.0	567	24.3	198	8.5	38	1.6	-	-	102	4.4	2165	70	-	2337
おきる	173	37.2	80	17.2	43	9.2	71	15.3	13	2.8	-	-	98	21.1	354	13	-	465
はう	12	32.4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	25	67.6	12	-	-	37
かける	27	30.0	3	3.3	6	6.7	1	1.1	-	-	7	7.8	49	54.4	38	3	-	90
あるく	336	29.5	12	1.1	25	2.2	47	4.1	53	4.7	18	1.6	685	60.2	415	38	-	1138
とぶ	18	21.2	14	16.5	12	14.1	5	5.9	1	1.2	-	-	40	47.1	40	5	-	85
はしる	89	20.1	47	10.6	59	13.3	5	1.1	9	2.0	18	4.1	229	51.8	201	10	2	442
およぐ	10	11.1	-	-	-	-	-	-	1	1.1	1	1.1	78	86.7	12	-	-	90
すべる	2	10.0	-	-	-	-	1	5.0	-	-	-	-	17	85.0	3	-	-	20
つく	-	-	367	69.6	88	16.7	8	1.5	3	0.6	-	-	66	12.5	456	5	-	527
はいる	50	3.2	1013	65.1	298	19.2	60	3.9	1	0.1	-	-	160	10.3	1356	33	-	1555
むらがる	-	-	32	60.4	2	3.8	-	-	-	-	-	-	19	35.8	34	-	-	53
むかう	17	2.4	416	58.7	284	40.1	22	3.1	1	0.1	-	-	9	1.3	660	40	-	709
もどる	7	0.9	480	58.5	209	25.5	38	4.6	13	1.6	1	0.1	79	9.6	736	6	-	821
むれる	-	-	4	57.1	-	-	-	-	-	-	-	-	3	42.9	4	-	-	7
うつる	-	-	78	56.9	47	34.3	14	10.2	-	-	-	-	13	9.5	109	15	-	137
おもむく	-	-	29	55.8	15	28.8	-	-	-	-	-	-	8	15.4	44	-	-	52
いたる	-	-	2	50.0	2	50.0	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	4
あつまる	-	-	121	48.0	8	3.2	7	2.8	-	-	-	-	117	46.4	134	1	-	252
あがる	15	11.2	56	41.8	32	23.9	8	6.0	1	0.7	-	-	16	11.9	114	4	-	134
のぼる	139	26.9	175	33.8	120	23.2	12	2.3	13	2.5	2	0.4	68	13.2	437	12	-	517
しりぞく	-	-	12	31.6	4	10.5	-	-	1	2.6	-	-	21	55.3	17	-	-	38
かえる	2	0.1	462	25.4	456	25.0	97	5.3	3	0.2	-	-	816	44.8	992	14	-	1822
すすむ	33	18.6	43	24.3	24	13.6	3	1.7	7	4.0	5	2.8	69	39.0	101	7	-	177
くる	12	0.4	568	19.0	509	17.0	214	7.1	101	3.4	-	-	1610	53.7	1370	17	-	2997
いく	76	1.7	1090	24.2	1726	38.3	32	0.7	173	3.8	6	0.1	1443	32.0	3034	32	-	4509
さがる	1	4.2	6	25.0	8	33.3	3	12.5	-	-	-	-	8	33.3	14	2	-	24



表 7 移動動詞と格との結合頻度（無情物移動体）

格 動詞	ヲ		ニ		ヘ		カ		マデ		格結合数				用例数	
	フ	%		%		%		%		%	0	%	1	2		3
こえる	3	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	3
くぐる	2	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	2
はう	2	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	2
つたう	9	90.0	-	-	-	-	-	-	-	-	1	10.0	9	-	-	10
よぎる	2	66.7	-	-	-	-	-	-	-	-	1	33.3	2	-	-	3
とおる	19	59.4	5	15.6	1	3.1	-	-	-	-	7	21.9	25	-	-	32
ぬける	4	57.1	1	14.3	2	28.6	3	42.9	-	-	-	-	4	3	-	7
はなれる	8	40.0	-	-	-	-	6	30.0	-	-	6	30	14	-	-	20
はしる	3	23.1	2	15.4	2	15.4	1	7.7	-	-	6	46.2	6	1	-	13
すべる	1	16.7	-	-	-	-	-	-	-	-	5	83.3	1	-	-	6
むかう	-	-	3	100.0	-	-	1	33.3	-	-	-	-	2	1	-	3
つく	-	-	2	66.7	-	-	-	-	-	-	1	33.3	2	-	-	3
わたる	4	22.2	11	61.1	2	11.1	2	11.1	-	-	1	5.6	15	2	-	18
あつまる	-	-	5	38.5	1	7.7	-	-	-	-	7	53.8	6	-	-	13
あがる	-	-	3	37.5	-	-	-	-	-	-	5	62.5	3	-	-	8
はいる	-	-	31	36.5	4	4.7	5	5.9	-	-	45	52.9	40	-	-	85
のぼる	-	-	11	20.0	-	-	5	9.1	-	-	39	70.9	16	-	-	55
とぶ	4	15.4	5	19.2	1	3.8	2	7.7	-	-	14	53.8	12	-	-	26
でる	-	-	6	10.2	-	-	4	6.8	-	-	49	83.1	10	-	-	59
いく	-	-	-	-	1	50.0	-	-	1	50.0	-	-	2	-	-	2
おりる	-	-	-	-	-	-	1	50.0	-	-	1	50.0	1	-	-	2
くる	-	-	9	5.8	3	1.9	61	39.6	1	0.6	81	52.6	72	1	-	154
もどる	-	-	-	-	-	-	-	-	1	33.3	2	66.7	1	-	-	3
すすむ	-	-	-	-	-	-	-	-	1	25.0	3	75.0	1	-	-	4
まわる	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	100.0	-	-	-	4
むれる	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	100.0	-	-	-	1
さがる	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	100.0	-	-	-	1

## 1.4. 第 1 章のまとめ

1.2で述べたように、また表 6、表 7 から分かるように、それぞれの移動動詞は異なる格結合頻度を見せている。例えば、ある動詞はヲ格名詞と、ある動詞はニ格名詞と、ある動詞はヘ格名詞との結びつきが高いというように、動詞によって最も多く結びつく格が異なるのである。また、ある動詞は一つの格との結びつきが極めて高く、他の結びつきはあまり見られない一方、ある動詞は最も多く結びつく格以外の結びつきも多く見られるなど、各格との結合頻度においても偏りの差が見られるのである。それは、“移動”という範疇的意味をもつ動詞であっても、それぞれ異なる語彙的意味の側面をもつからであると考えられる。結合の偏りに見られるそれぞれの移動動詞の範疇的意味については、第 2 章で詳しく述べることにする。

それぞれの移動動詞について考察を行う前に、各移動動詞が最も多く結びつく格の名詞によって移動動詞を分けると次のように分類することができる。

有情物移動体の場合は、表 6 の結合頻度から〈ヲ格名詞との結びつきが最も多い動詞〉、〈ニ格名詞との結びつきが最も多い動詞〉、〈ヘ格名詞との結びつきが最も多い動詞〉の 3 つに分かれる。各グループに属する動詞は次のとおりである。動詞は表 6 の順に示す。

[1] フ格名詞との結びつきが最も多い動詞

ぶらつく、つたう、めぐる、よぎる、まわる、すぎる、くぐる、こえる、ぬける、たどる、とおる、たつ、わたる、うろつく、さまよう、はなれる、くだる、さる、でる、おりる、はう、かける、あるく、とぶ、はしる、およぐ、すべる

[2] ニ格名詞との結びつきが最も多い動詞

つく、はいる、むらがる、むかう、もどる、むれる、うつる、おもむく、いたる、あつまる、あがる、のぼる、しりぞく、かえる、すすむ、くる

[3] ヘ格名詞との結びつきが最も多い動詞

いく、さがる

無情物移動体の場合は、表 7 から格結合頻度が 1 または 0 のものはのぞくと、格結合頻度から、次のようなグループとなる。動詞は表 7 の順に示す。

[1] フ格名詞との結びつきが最も多い動詞

こえる、くぐる、はう、つたう、よぎる、とおる、ぬける、はなれる、はしる

[2] ニ格名詞との結びつきが最も多い動詞

むかう、つく、わたる、あつまる、あがる、はいる、のぼる、とぶ、でる

[3] ヘ格名詞、マデ格名詞との結びつきが最も多い動詞

いく

[4] カラ格名詞との結びつきが最も多い動詞

くる

[5] その他（格結合頻度が 1 または 0 のもの）

すべる、おりる、もどる、すすむ、まわる、むれる、さがる

有情物移動体の場合と無情物移動体の場合とでは、全体的な傾向は同じである。しかし、細かくみると、有情物移動体と無情物移動体とでは違いが見られる。まず、エラー! 参照元が見つかりません。で述べたように、有情物移動体の場合は「いく」が最も多く現れるのに対して、無情物移動体になると、「いく」はほとんど現れず、「くる」が最も多く現れる。さらに、格との結びつきにおいて、「くる」は有情物移動体の場合は、ニ格名詞との結合頻度が最も高い動詞であるのに対して、無情物移動体の場合は、カラ格名詞との結合頻度が最も高い動詞であるという異なる格結合頻度をみせるのである。

また、「わたる」「とぶ」も有情物移動体の場合は、フ格名詞との結びつきが最も高い動詞であるのに、無情物移動体の場合は、ニ格名詞との結びつきが最も高い動詞になる。

さらに、無情物移動体の場合、格結合数が 0 のもの、また出現頻度 0 の動詞（45 語中 18 語が出現しない）の多さも目立つ。

このように同じ動詞でも移動体の性質、つまり有情物移動体と無情物移動体とでは、格の結びつきにおいて異なる偏りを見せている。また、無情物移動体の場合は現れない動詞があるなど、移動体の性質によって異なる様子を見せている。これは移動体を有情物と無情物に分けて考察すべきであることを示していると思われる。